2020

大学院医学系研究科博士課程

履修案内別冊

ーがん専門医療人養成コースー

【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】

【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】

【小児血液がんの診断法・治療法開発を担う医療従事者養成コース】

【ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース】

文部科学省

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン



目 次

令和 2 年度 学年曆	• • 2
「がん専門医療人養成コース」概要	• • 3
授業科目及び担当教員一覧表	• • 5
講義概要	
全コース(共通科目)	• • 7
先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース	••10
ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	••19
小児血液がんの診断法・治療法開発を担う医療従事者養成コース	• • 2 3
ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	• • 2 7

令和2年度 大学院医学系研究科博士課程 学年暦

Academic Calendar 2020 - 2021 in the Doctoral Program, Graduate School of Medicine

行 事	日 程
Events	Schedule
前期(4月 1日(水))~ 9月30日(水))
First Semester (April 1, We	ed. – September 30, Wed.)
学年開始	4月 1日(水)
First Day of the Academic Year	April 1, Wed.
入学宣誓式・新入生履修指導(春季)	4月 3日(金)
Entrance Ceremony / New Student Guidance (Spring)	April 3, Fri.
前期授業期間	4月 6日(月)~ 8月 7日(金)
Term of Classes for First Semester	April 6, Mon. – August 7, Fri.
プログレス・レポート(ポスター発表会)	7月10日(金) ~ 7月16日(木)
Annual Progress Report (Poster Presentation)	July 10, Fri. – July 16, Thu.
夏季休業(集中講義期間を除く)	8月 8日(土)~ 9月30日(水)
Summer Recess (Except for Term of Intensive Course)	August 8, Sat. – September 30, Wed.
学位論文研究発表会(第1回)	8月24日(月) ~ 8月26日(水)
Presentation for Thesis Defense (First Time)	August 24, Mon. – August 26, Wed.
集中講義期間	9月15日(火)~ 9月18日(金)
Term of Intensive Course	September 15, Tue. – September 18, Fri.
学位授与式(秋季)	10月 1日(木)
Degree Conferment Ceremony (Autumn)	October 1, Thu.
後期(10月 1日(木))~ 3月31日(水))
Second Semester (October	1, Thu. – March 31, Wed.)
入学宣誓式・新入生履修指導(秋季)	10月 1日(木)
Entrance Ceremony / New Student Guidance (Autumn)	October 1, Thu.
後期授業期間(前半)	10月 2日(金)~12月18日(金)
Term of Classes for Second Semester (First Half)	October 2, Fri. – December 18, Fri.
冬季休業	12月19日 (土) ~ 1月 3日 (日)
Winter Recess	December 19, Sat. – January 3, Sun.
後期授業期間(後半)	1月 4日(月)~ 2月12日(金)
Term of Classes for Second Semester (Second Half)	January 4, Mon. – February 12, Fri.
学位論文研究発表会(第2回)	1月25日(月)~ 1月28日(木)
Presentation for Thesis Defense (Second Time)	January 25, Mon. – January 28, Thu.
春季休業	2月13日(土)~ 3月31日(水)
Spring Recess	February 13, Sat. – March 31, Wed.
学位授与式(春季)	3月 9日(火)
Degree Conferment Ceremony (Spring)	March 9, Tue.
学年終了	3月31日 (水)
Last Day of the Academic Year	March 31, Wed.

【備考】

- 1) 定期健康診断の日程は、別途通知する。
- 2) 10月23日(金)は、学園祭(若鮎祭)の開催にともない、休講とする。
- 3) その他、学年暦に変更があった場合は、その都度通知する。

「がん専門医療人養成コース」概要

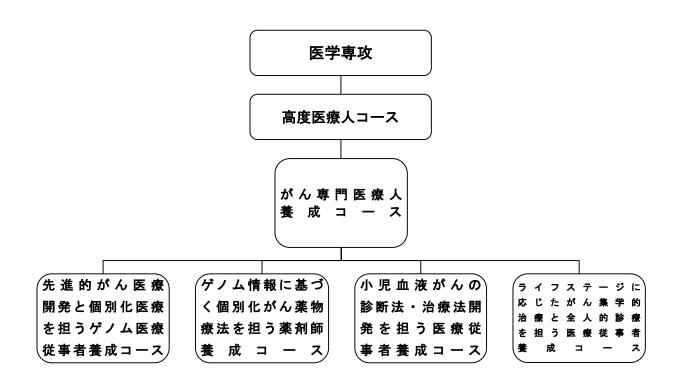
【カリキュラムの特徴】

「がん専門医療人養成コース」は従来の大学院の枠組みに加え、臨床の専門医や医療資格の獲得を目的としており、学外の病院に勤務している医師や医療スタッフ(社会人)にも受けやすい体制、内容、目的となっている。

難治がんに対する先進的がん医療、ゲノム医療、小児がん医療、ライフステージに応じた集学的がん医療に貢献するがん専門医療従事者の養成に重点を置いている。

【各コースの概要】

「がん専門医療人養成コース」は、大学院医学系研究科博士課程のうち医学専攻高度医療人コースに設置しており、「先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース」、「ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース」、「小児血液がんの診断法・治療法開発を担う医療従事者養成コース」、「ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース」の4コースを設置している。



《ディレクター:醍醐 弥太郎 教授(臨床腫瘍学講座)》

先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース (責任者:醍醐 弥太郎 教授(臨床腫瘍学講座))

がんゲノム医療に精通したチーム医療を担う医療従事者(医師、医療スタッフ等)であるとともに、ゲノム情報を用いたがんの薬物療法や緩和ケア等及び先進的がん医療開発に従事できる高度かつ学際的能力を備えた人材を育成する。

ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース (責任者: 寺田 智祐 教授(薬剤部))

ゲノム情報を適切に解析し、個々の患者に合わせて最適な薬物及び投与量を決定する個別化薬物療法へ向けて臨床応用することができる薬剤師を育成する。

小児血液がんの診断法・治療法開発を担う医療従事者養成コース (責任者:丸尾 良浩 教授(小児科))

小児血液がんにおける、最新の診断法と最新の治療を熟知し、それを基にして、さらなる小児血液がんの治癒生存率の向上、晩期合併症の軽減をはかるための、新規診断法の開発や、効果的な治療法の開発を遂行できる医療人を育成する。

ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース (責任者:谷 眞至 教授(消化器外科・乳腺・一般外科))

ライフステージに応じた、基礎・臨床腫瘍学の概念を習得し探究する視点と技術を 備えるとともに、遺伝性疾患の理解や社会医学と他領域の知識を兼ね備えた全人的医 療を行う人材を育成する。

授業科目及び担当教員一覧表 がん専門医療人養成コース

□ 	科目	□ ₩ N □ A	授業形態 (講義・演	配当	期	別	単	時間数(1単位あたり	選			授 業 担 当 教 員
ス 名	区分	授業科目名	習・実習の別)	学 年	前期	後期	位 数	講義15h、 演習15h、 実習30h)	· 必(主担当	担当
	共通	がん基礎学	講義	1	通	年	2	30	必	修	◎醍醐	谷眞、渡辺
	必修	ゲノム医学	講義	1	通	<u></u> 年	2	30	必	修	◎醍醐	
全	科目	緩和ケア学	講義	1	通	连	2	30	必	修	◎醍醐	谷眞
	共	腫瘍薬剤学	講義	1	通	年	2	30	選	択	◎寺田智	醍醐、森田真
ス	通選	放射線腫瘍学	講義	1	通	<u></u> 连	2	30	選	択	◎渡辺	
	択 科	生命倫理学	講義	1	通	·年	2	30	選	択	◎室寺	
	目	医療統計学	演習	1	——— 通	· 连	2	30	選	択	◎田中佐	三浦、門田
	П —	がん薬物療法学総論	講義	1	通	年	4	60	必	修	◎醍醐	西英、目片、寺田智、伊藤靖、村田聡
	ス必修	がん薬物療法学特論	演習	1	通	年	4	60	必	修	◎醍醐	西英、目片、寺田智、伊藤靖、村田聡
	科目	がん薬物療法学実習	実習	2~3	通	<u>i</u> 年	8(4 • 4)	240	必	修	◎醍醐	西英、目片、寺田智、伊藤靖、村田聡
先 進		臨床腫瘍学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎醍醐	寺田智、中野、花岡
的		がんゲノム医療学実習	実習	2~3	通	<u>:</u> 年	4(2 · 2)	120	選	択	◎醍醐	谷眞、寺田智、木藤
が ん		遺伝統計学実習	実習	2~3	通	<u>:</u> 年	4(2 · 2)	120	選	択	◎醍醐	川北
医		バイオインファマティクス実習	実習	2~3	通	.年	4(2 · 2)	120	選	択	◎醍醐	川北
療 開		呼吸器内科学実習	実習	2~3	通	连	4(2 · 2)	120	選	択	◎中野	長尾、小川
発 と		血液内科学実習	実習	2~3	通	连	4(2 · 2)	120	選	択	◎安藤	醍醐、寺田智、木藤、南口、河原
個		消化器内科学実習	実習	2~3	通	连	4(2 · 2)	120	選	択	◎安藤	醍醐、寺田智、伊藤明
別 化		小児科学実習	実習	2~3	通	.年	4(2 · 2)	120	選	択	◎丸尾	多賀
医療		皮膚科学実習	実習	2~3	通	.年	4(2 · 2)	120	選	択	◎藤本	加藤、(立花客員教授)、中西健
を	⊐	消化器外科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎谷眞	内藤、村田聡、飯田、三宅
担 う	- ス 選	乳腺・一般外科学実習	実習	2~3	通	连	4(2 · 2)	120	選	択	◎梅田	谷眞、清水智
ゲノ		呼吸器外科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎花岡	
厶		整形外科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎今井	
医療		脳神経外科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎野﨑	深見
従事		耳鼻咽喉科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎清水猛	大脇、戸嶋、神前
者		産科学・婦人科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎村上	木村
養 成		泌尿器科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎河内	成田
		眼科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎大路	西信、澤田、柿木
ス		放射線科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎渡邉	大田、井藤、園田
		放射線治療学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎渡邉	
		がん性疼痛治療学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎ ‡ 比川	福井
		歯科口腔外科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎山本学	家森
	П — 1	臨床腫瘍薬剤学総論	講義	1	通	年	4	60	必	修	◎寺田智	森田真
担個ゲラ別・	ス必修	臨床腫瘍薬剤学特論	演習	1		年	4	60	必	修	◎寺田智	森田真
薬化ム類が情	科目	臨床腫瘍薬剤学実習	実習	2~3		年	8(4 · 4)	240	必	修	◎寺田智	森田真
師ん報	П _	臨床腫瘍学実習	実習	2~3		年	4(2 · 2)	120	選	択	◎醍醐	寺田智、中野、花岡
成コー	- ス 選	がんゲノム医療学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎醍醐	谷眞、寺田智、木藤
スを	択科	遺伝統計学実習	実習	2~3	通	年	4(2 • 2)	120	選	択	◎醍醐	лык
		バイオインファマティクス実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎醍醐	川北

5

授業科目及び担当教員一覧表 がん専門医療人養成コース

	科目	授 業 科 目 名	授業形態 (講義・演	配当	期	別	単 位	時間数(1 単位あたり 講義15h、	選:			授 業 担 当 教 員	
ス 名	区分		習・実習の別)	学 年	前期	後期	数	演習15h、 実習30h)	必		主担当	担当	
	□ – □	小児科学総論	講義	1	通	年	4	60	必	修	◎丸尾	多賀	
上 小	ス必修	小児科学特論	演習	1	通	年	4	60	必	修	◎丸尾	多賀	
医療従治療	科目	小児科学実習	実習	2~3	通	年	8(4 · 4)	240	必	修	◎丸尾	多賀	
事法が者開		がん薬物療法学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎醍醐	西英、目片、寺田智、伊藤靖、村田聡	
成を念		臨床腫瘍学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎醍醐	寺田智、中野、花岡	
1 1 ス 1 ス		がんゲノム医療学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎醍醐	谷眞、寺田智、木藤	
		遺伝統計学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎醍醐	川北	
	1	血液内科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎安藤	醍醐、寺田智、木藤、南口、河原	
	ı — ı	がん病態制御学総論	講義	1	通	年	4	60	必	修	◎谷眞	清水智、内藤	
ラ	ス必修	がん病態制御学特論	演習	1	通	年	4	60	必	修	◎谷眞	清水智、梅田	
イフ	科目	がん病態制御学実習	実習	2~3	通	年	8(4 · 4)	240	必	修	◎谷眞	村田聡、飯田	
ステ		生体物理医学実習	実習	2~3	2~3 通年		4(2 · 2)	120	選	択	◎谷眞	目良、成瀬	
I		免疫学実習	実習	2~3	通	通年 4		120	選	択	◎伊藤靖	平田、縣、後藤	
ジに		遺伝子工学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎後藤	平田、縣、小島秀、寺島、佐藤朗	
応 じ		組織工学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎今井	川崎、森幹	
た		呼吸器内科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎中野	長尾、小川	
がん		血液内科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎安藤	醍醐、寺田智、木藤、南口、河原	
集		消化器内科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎安藤	醍醐、寺田智、伊藤明	
学 的		小児科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎丸尾	多賀	
治 療		皮膚科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎藤本	加藤、(立花客員教授)、中西健	
ک		消化器外科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎谷眞	内藤、村田聡、飯田、三宅	
全 人	」 ス 選	乳腺・一般外科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎梅田	谷眞、清水智	
的診		呼吸器外科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎花岡		
療	17	整形外科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎今井		
を 担		脳神経外科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎野﨑	深見	
う 医		耳鼻咽喉科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎清水猛	大脇、戸嶋、神前	
療		産科学・婦人科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎村上	木村	
従事		泌尿器科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎河内	成田	
者養		眼科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎大路	西信、澤田、柿木	
成		放射線科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎渡邉	大田、井藤、園田	
		放射線治療学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	◎渡邉		
ス		麻酔科学実習	実習	2~3	通	年	4(2 · 2)	120	選	択	© \$\\\\\	福井、瀬戸	
		歯科口腔外科学実習	実習	2~3	通	——— 年	4(2 · 2)	120	選	択	◎山本学	家森	

6

全コース (共通必修科目・共通選択科目)

全コース

# 通 がん基礎学/ 必修科目 から6単位、共通選択科目から4単位以上、コース必修行 を	、
授業科目	業形態
科目 授業科目の名称/ 授業科目の目標 単位 必修 区担当教員職・氏名分 授業科目の概要 数年 選択 共通がん基礎学/必修科目教授・醍醐弥太郎、谷眞至、渡邉嘉之がん治療の考え方と方法の概要を理解 現在行われている外科治療、がん薬物療法、および放射線治療を含む種々のがん治療の考え方と方法の概要を理解 2 1 必修	業形態
目 授業科目の名称/ 区 担当教員職・氏名 授業科目の個票 位 当 年 選択	業形態
分 授業科目の概要 次 共 通 がん基礎学/ 必修科目 教授・醍醐弥太郎、 谷眞至、渡邉嘉之 現在行われている外科治療、がん薬物 療法、および放射線治療を含む種々の がん治療の考え方と方法の概要を理解 2 1 必修	態
必修科目 教授・醍醐弥太郎、 容眞至、渡邉嘉之 がん治療の考え方と方法の概要を理解	講義
外科治療、がん薬物治療、放射線治療、およびその他の治療法を含め、基本的な治療の考え方や適応、さらに代表的な手技についての講義を行う。	
評価方法 出席、レポート提出による総合評価	
ゲノム医学/ 教授・醍醐弥太郎	講義
悪性腫瘍の遺伝学とゲノム医学の概要 を理解し、その臨床応用に向けた取り 組みや実践における考え方・手法を理 解する。	
評価方法 出席、レポート提出による総合評価	
 緩和ケア学/教授・醍醐弥太郎、 できる。 谷眞至 緩和ケアの概要を理解し論ずることが できる。 がん患者の痛みは身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな複合要素によって形成される全人的な痛みであることを理解する。この症状に対し、多職種からなる協働チームとして緩和ケアに対応すること、チームとして情報の共有・評価、専門性を発揮したケアを行うことを理解し、実践方法を習得する。 出席、レポート提出による総合評価 	講義
共 通 腫瘍薬剤学/ がんの薬物療法に必要な抗腫瘍薬の特 2 1 選択	講義
選択科目 教授・寺田智祐、醍醐弥太郎 准教授・森田真也 性を理解し、その臨床応用に必要な知識を習得する。 ・がんの化学療法について、薬理学的な基礎知識を習得する。 ・薬力学および薬物動態学の観点から、抗がん剤を理解する。 ・抗がん剤に関する薬物相互作用ならびに有害作用について理解する。 ・臨床薬理学および臨床薬剤学の観点から、抗がん剤を理解する。 ・以上の概要に関連した講義を適宜行う。	
評価方法 提出レポートなどを含む総合評価で判定	

科 目	授業科目の名称/	授業科目の目標	単 位	配当	必修	授 業
区 分	担当教員職・氏名	授業科目の概要	数	年 次	選択	形 態
	放射線腫瘍学/ 教授・渡邉嘉之	現在行なわれている腫瘍に対する種々の画像診断を用いた放射線診断学および、腫瘍に対する高精度放射線治療を含めた種々の放射線治療学の概要を理解する。	2	1	選択	講義
		種々の画像診断法を用いた腫瘍の検出 や病期診断についての基本的な考え方 や放射線治療法の適応や代表的な照射 法についての講義を行う。				
	評価方法	レポート提出				
	生命倫理学/ 教授・室寺義仁	生命倫理の基本原則について、特に人間を対象とする医学研究の倫理的原則の中で謳われる、人にとっての「尊厳と全体性」について理解を深める。 人の尊厳の理解に係わる倫理的諸問題を、日本文化における人と人との関係性の視点から、自己の統一性と他己との繋がりの関係性において考察する。	2	1	選択	講義
	評価方法	出席とレポート提出による総合評価				
	医療統計学/ 准教授・田中佐智子 教授・三浦克之 准教授・門田文	臨床試験、データベース研究のデザインと統計学手法について理解を深め、論文の統計部分の書き方と読み方について学ぶ。 1. 臨床試験の基礎知識の習得 2. データベース研究の基礎知識の習得 3. 基本的な統計学的手法の習得、統	2	1	選択	演習
	評価方法	またのはれば子の子伝の首待、机計パッケージを利用した解析演習4.近年用いられてきた統計手法の知識の習得出席および発表(レポート提出を含む)		総合証	価	
	日四カな	H/III 42 A U 元久 (レか 「TREET C 百亿)	1-46	子は口は	ІШ	

先進的がん医療開発と個別化医療を担う ゲノム医療従事者養成コース (コース必修科目・コース選択科目)

先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース

修了要件》 履修方法 評価基準 授業科目	及び 16単位、 必要な論文 に合格する	・目から6単位、共通選択科目から4単位コース選択科目から4単位以上、合計 指導を受けた上で、本大学院が行う博士 こと。 ・可・不可の5段階評価。	3 0 単位	と以上を	修得し	、かつ
科 目 区	授業科目の名称/ 担当教員職・氏名	授業科目の目標 授業科目の概要	単 位 数	配 当 年	必修 • 選択	授業形
分コース必須科目	/ 教授・醍醐弥太郎、	がんの治療全般における薬物療法の位置づけを理解し、標準治療と、腫瘍のゲノム情報と患者個人のゲノム情報に基づいた個別化治療を理解できる。 種々の細胞傷害性抗がん薬、分子標的薬、腫瘍免疫の賦活に作用する薬剤にの作用機序、適用、副作用ついて理解できる。	4	7 1	必修	態義
	評価方法 がん薬物療法学特論	出席、レポート提出による総合評価 がん薬物療法の最近の進歩と、今後の	4	1	必修	演習
	/ 教授・醍醐弥太郎、 西英一郎 目片英	がん薬物療法学研究の方向性について論じることができる。 具体的なテーマでの演習を通して、がんの薬物療法における研究の現況を知り、precision medicineとしてどのように展開していくか、今後の研究の方向性を学ぶ。		1	北市	快日
	評価方法	出席、レポート提出による総合評価	•			•
	がん薬物療法学実習 / 教授・醍醐弥太郎、 西英一郎、目片英 治、寺田智祐、伊藤 靖 講師・村田聡	がん薬物療法の実際を、その問題点も含めて理解する。 ケーススタディーを通して、薬物療法のがんへの効果と全身への副作用を具体的に理解できるよう、実習を行う。	8 (4·4)	2~3	必修	実習
	評価方法	出席、レポート提出による総合評価	•			•
選択科目	臨床腫瘍学実習/ 教授・醍醐弥太郎、 寺田智祐、中野恭幸 准教授・花岡淳	臨床腫瘍学に関わる先進的医療を含む 最新の臨床領域の医療・研究の意義を 理解する。 臨床腫瘍学に関わる先進的医療の事例 を説明できる。 臨床腫瘍学に関わる先進的医療を含め た最新の臨床領域の医療・研究現場を 経験し概要を報告する。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
	評価方法	出席、レポート提出による総合評価	.	L	<u> </u>	

科目	授業科目の名称/	授業科目の目標	単 位	配当	必修・	授業
区 分	担当教員職・氏名	授業科目の概要	数	年次	選択	形態
選択科目	がんゲノム医療学実習/ 教授・醍醐弥太郎、 谷眞至、寺田智祐 准教授・木藤克之	悪性腫瘍のゲノム医学の基礎を習得し、がんゲノム医療を理解する。また、がんゲノム医療に関わる基礎・臨床医学的研究に主体的に参画することができる。 悪性腫瘍にかかわるがんゲノム医療および精密医療(Precision Medicine)	4 (2·2)	2~3	選択	実習
		の理論と実践について実習を行う。				
	評価方法	出席、レポート提出による総合評価	4	0 0	\25.4U	<i>⊢</i> + ব্যব
	遺伝統計学実習/ 教授・醍醐弥太郎 准教授・川北素子	悪性腫瘍の遺伝学の基礎を習得し、遺伝統計学を理解する。また、遺伝統計学的手法を用いた基礎・臨床医学的研究に主体的に参画することができる。 悪性腫瘍にかかわる遺伝学、遺伝統計学ならびに生命倫理、遺伝カウンセリング(診断、治療含む)の理論と実践について実習を行う。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
	評価方法	出席、レポート提出による総合評価				
	バイオインファマ ティクス実習/ 教授・醍醐弥太郎 准教授・川北素子	悪性腫瘍のバイオインファマティクス解析の基礎を習得・理解する。また、バイオインファマティクスの手法を用いた基礎・臨床医学的研究に主体的に参画することができる。 悪性腫瘍にかかわるバイオインファマ	4 (2·2)	2~3	選択	実習
		では、日本語である。				
	評価方法	出席、レポート提出による総合評価)33 LH	- 1
	呼吸器内科学実習/ 教授・中野恭幸 講師・長尾大志、小 川惠美子	呼吸器系の腫瘍に関して最新の診断法・治療法を論ずることができ、実践することができる。 肺腫瘍について、その診断ならびに集学的治療(化学療法・放射線治療)について実習を行う。	$4 \\ (2 \cdot 2)$	2~3	選択	実習
	評価方法	出席、レポート提出等による総合評価				
	血液内科学実習/ 教授・安藤朗、醍醐 弥太郎、寺田智祐 准教授/木藤克之 講師・南口仁志、河 原真大	造血期悪性疾患の薬物療法(放射線治療・造血幹細胞移植療法を含む)を最新のEBMに基づいて実践することができる。また、基礎的・臨床的研究に主体的に参画することができる。 造血器悪性腫瘍に関する基礎的・臨床的研究、さらには分子標的治療・造血細胞移植(支持療法を含む)に関する研究について実習を行う。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
	評価方法	 出席、レポート提出(症例報告書を含る	L か) 等に	よる総	 合評価	
	l .	1				

授業科目の名称	科			単	配	必修	授
安藤科目の観響 次 (授業科目の名称/	授業科目の目標				
選択科目 教授・安藤朗、		担当教員職・氏名	授業科目の概要	数	'	選択	,
小児科学実習		教授・安藤朗、醍醐 弥太郎、寺田智祐	線治療・インターベンションを含む) を最新のEBMに基づいて実践すること ができる。また、基礎的・臨床的研究 に主体的に参画することができる。 消化器癌についての内視鏡的治療なら びに放射線・化学療法、肝癌・膵臓 癌・胆管癌についての集学的治療につ		2~3	選択	実習
教授・丸尾良浩 化教授・多賀崇		評価方法	出席、レポート提出(症例報告書を含む	シ)によ	る総合	評価	
原(遺伝子治療、造血細胞移植療法)の実習を行う。 評価方法		教授・丸尾良浩	び特有の腫瘍発生がみられる。これら についての診断(含遺伝子診断)、集 学的治療(含造血幹細胞移植)および 長期予後等の問題点について実習を行	-	2~3	選択	実習
皮膚科学実習/ 惟教授・藤本徳毅 講師・加藤威、中西 健史 客員教授・立花隆夫 原産論ずることができ、かつ実践する ことができる。 がん治療認定医または皮膚悪性腫瘍指 導専門医取得が目標。 世席、レポート提出による総合評価 消化器の生物学的特性を理解し、治 接の原則や適切な臨床研究の実法と 権教授・内藤弘之 講師・村田聡、飯田 洋也、三宅亨 皮膚原発悪性腫瘍について、診断およ びその集学的治療の実習を行う。 世席、レポート提出による総合評価 消化器癌の生物学的特性を理解し、治 療の原則や適切な臨床研究の実法と 解析法について理解するとともに、各 治療法の利点と限界について認識を深 める。 消化器癌について、その集学的治療な らびに抗腫瘍剤の感受性の研究を含め た実習を行う。			療(遺伝子治療、造血細胞移植療法)				
准教授・藤本徳毅 講師・加藤威、中西 (免疫科学的手法ならびに分子生物学 的手法をを含む)およびその集学的治療を論ずることができ、かつ実践する ことができる。 がん治療認定医または皮膚悪性腫瘍指導専門医取得が目標。 皮膚原発悪性腫瘍について、診断およびその集学的治療の集習を行う。 理価方法 消化器外科学実習/教授・谷眞至 准教授・内藤弘之 講師・村田聡、飯田 洋也、三宅亨 (2・2) (2・2) (2・2) (2・2) (2・2) (2・2) (2・2)			出席、レポート提出による総合評価				
消化器外科学実習/ 教授・谷眞至 准教授・内藤弘之 講師・村田聡、飯田 洋也、三宅亨		准教授・藤本徳毅 講師・加藤威、中西 健史	腫、軟部腫瘍を含む)について、診断 (免疫科学的手法ならびに分子生物学 的手法をを含む)およびその集学的治療を論ずることができ、かつ実践する ことができる。 がん治療認定医または皮膚悪性腫瘍指 導専門医取得が目標。 皮膚原発悪性腫瘍について、診断およ		2~3	選択	実習
教授・谷眞至 准教授・内藤弘之 講師・村田聡、飯田 洋也、三宅亨 「11に番題の生物学的特性を理解し、信療の原則や適切な臨床研究の実施法と解析法について理解するとともに、各治療法の利点と限界について認識を深める。 「11に番題の生物学的特性を理解し、信意の原則や適切な臨床研究の実施法と解析法とついて理解するとともに、各治療法の利点と限界について認識を深める。 「11に番題の生物学的特性を理解し、信意を理解し、信意の原則や適切な臨床研究の実施法と解析法について理解するとともに、各治療法の利点と限界について認識を深める。 「11に番題の生物学的特性を理解し、信意を理解し、信意の原則や適切な臨床研究の実施法と解析法について理解するとともに、各治療法の利点と限力に表現している。 「11に番題の生物学的特性を理解し、信意を理解し、信意を理解し、信意を理解し、信意を理解し、信意を理解し、信意を理解し、信意を理解し、信意を理解し、信意を理解し、信意を理解し、信意を理解し、信意を理解し、信意を理解し、信意を理解している。 「11に番題の生物学的特性を理解し、信意を理解しまするを理解しまする			出席、レポート提出による総合評価				
評価方法 出席と実習のレベル評価		教授・谷眞至 准教授・内藤弘之 講師・村田聡、飯田	療の原則や適切な臨床研究の実施法と解析法について理解するとともに、各治療法の利点と限界について認識を深める。 消化器癌について、その集学的治療ならびに抗腫瘍剤の感受性の研究を含め	_	2~3	選択	実習
		評価方法	出席と実習のレベル評価		.		l

科		授業科目の目標	単	配	必修	授
国区	授業科目の名称/ 担当教員職・氏名		位 数	当 年	· 選択	業 形
分		授業科目の概要	<i></i>	次		態
	乳腺・一般外科学実習/ 階教授・梅田朋子 教授・谷眞至 准教授・清水智治	乳腺の生物学的特性を理解し、治療の原則や適切な臨床研究の実施法と解析法について理解するとともに、各治療法の利点と限界について認識を深める。 乳腺腫瘍について、その集学的治療(癌ワクチン療法を含む)の実習を行う。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
	評価方法	出席、実習の習得レベル評価				
	呼吸器外科学実習/ 准教授・花岡淳	肺癌の腫瘍特性を理解した上で診断・ 治療について学習し、治療計画を立案 出来るようになることを目指す。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
		肺癌について、その集学的治療(免疫 治療を含む)の臨床実習を行う。				
	評価方法	出席・レポート提出による総合評価				
	整形外科学実習/教授・今井晋二	原発性および転移性骨・軟部腫瘍の画像診断、病理診断と治療(外科的治療、化学療法)について学習し、治療計画の作成と実施が遂行できることを目指す。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
		骨・軟部腫瘍について、その集学的治療の臨床実習を行う。				
	評価方法	診療への参加とレポート提出により総合	合的に評			
	脳神経外科学実習/ 教授・野﨑和彦 講師・深見忠輝	中枢神経系原発腫瘍の分類を習得し、 その診断方法、分子生物学的背景について理解する。また転移性脳腫瘍を含めた中枢神経系腫瘍の手術治療、がん化学療法、放射線治療の役割を学習する。 脳腫瘍について、その集学的治療の臨床実習を行う。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
	評価方法	出席、レポート作成などによる総合評価	Ħ			

世の主義を持ちられる。	ŢŊ			174	⊒ :¬	N 1.65	₩
会 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一			授業科目の目標			必修	
選択科目 散長・清水猛虫	· ·		授業科目の概要	数		選択	態
頭頭部悪性腫瘍について、その集学的 治療の臨床実習を行う。		教授・清水猛史 准教授・大脇成広 講師・戸嶋一郎、神	た適切な検査・診断と治療を行うこと		2~3	選択	実習
がん妊孕について、正しい知識と最新 (2・2) 選択 実習 がん妊孕について、正しい知識と最新 (2・2) 数授・村上節 (在教授・木村文則 集 (2・2) を (2		,					
一個			出席、レポート提出による総合評価				
子宮・卵巣の悪性腫瘍を中心に、その 集学的治療の臨床実習を行う。さらに 妊孕性の維持についての基礎的研究を 行う。 出席、レポート提出による総合評価 泌尿生殖器系悪性腫瘍についての基礎 知識を身につけ、各種癌の特異性を理 解した上で、的確な治療計画が立てる。ことを目標とする。さら に骨盤内臓器癌に対する拡大手術に伴 う尿路再建について理解する。 泌尿生殖器系腫瘍について、その集学 的治療の臨床実習を行う。といきに関係のなる指子保存など化学療法剤 の各種の有害事象に対する対処法についての実習を行う。 を組象使・大路正人 准教授・西信良嗣 講師・澤田修、柿木 雅志 眼科学実習/ 教授・大路正人 推教授・西信良嗣 講師・澤田修、柿木 雅志 眼所発悪性腫瘍である網膜芽細胞腫 悪性黒色腫、悪性リンバ腫、基底細胞 悪性黒色腫、悪性リンバ腫、基底細胞 悪性黒色腫、悪性リンバ腫、基底細胞 悪性黒色腫、悪性リンバ腫、基底細胞 悪性黒色腫、悪性リンバ腫、基底細胞 悪性黒色に大療などの診断法とその治療法(手術療法、薬物療法、放射線療 法)について修得する。 眼原発悪性腫瘍について、その集学的 治療の臨床実習を行う。 上でいて修得する。 眼原発悪性腫瘍について、その集学的 治療の臨床実習を行う。 上で、かず線科学実習 法)について修得する。 ・		習/ 教授・村上節			2~3	選択	実習
※収録・河内明宏性を対した上で、のを発展性腫瘍についての基礎知識を身につけ、各種癌の特異性を理解した上で、の確な治療計画が立てることができることを目標とする。さらに骨盤内臓器癌に対する拡大手術に伴う尿路再建について理解する。 2~3 選択 実習 2~3 選択 2~3		作教授· 个们 又則	集学的治療の臨床実習を行う。さらに 妊孕性の維持についての基礎的研究を				
数授・河内明宏 推教授・成田充弘 W派生殖器系無性腫瘍についての基礎 解した上で、的確な治療計画が立てる ことができることを目標とする。さら に骨盤内臓器癌に対する拡大手術に伴 う尿路再建について理解する。 W家生殖器系腫瘍について、その集学 的治療の臨床実習を行う。			出席、レポート提出による総合評価				
眼科学実習/ 教授・大路正人 准教授・西信良嗣 講師・澤田修、柿木 雅志		教授·河内明宏	知識を身につけ、各種癌の特異性を理解した上で、的確な治療計画が立てることができることを目標とする。さらに骨盤内臓器癌に対する拡大手術に伴う尿路再建について理解する。 ※尿生殖器系腫瘍について、その集学的治療の臨床実習を行う。さらに男性不妊に対する精子保存など化学療法剤の各種の有害事象に対する対処法につ		2~3	選択	美習
教授・大路正人 准教授・西信良嗣 講師・澤田修、柿木 雅志 取けました。		評価方法	出席、レポート提出による総合評価				
治療の臨床実習を行う。		教授・大路正人 准教授・西信良嗣 講師・澤田修、柿木	悪性黒色腫,悪性リンパ腫,基底細胞 癌,扁平上皮癌などの診断法とその治 療法(手術療法,薬物療法,放射線療		2~3	選択	実習
放射線科学実習/ 教授・渡邉嘉之 講師・大田信一、井 藤隆太、園田明永							
教授・渡邉嘉之 講師・大田信一、井 藤隆太、園田明永 と代表的癌腫の画像所見の特徴を理解 する。また、放射線治療の適応や基本 的手技についても修得する。 各種悪性腫瘍の画像診断・放射線治療 法の臨床実習を行う。			出席レポート提出による総合評価			> → !	. →
法の臨床実習を行う。		教授・渡邉嘉之 講師・大田信一、井	と代表的癌腫の画像所見の特徴を理解 する。また、放射線治療の適応や基本		2~3	選択	実習
評価方法レポート提出							
		評価方法	レポート提出				

科 目 区	授業科目の名称/ 担当教員職・氏名	授業科目の目標 授業科目の概要	単 位 数	配当年	必修 • 選択	授業形
選択科目	放射線治療学実習/ 教授·渡邉嘉之	基本的な手技から高精度放射線治療までの放射線治療全体の方法論や適応等の考え方を理解する。 近年急速に発展し、臨床に導入され治療成績、有害事象の軽減に寄与する高精度放射線治療(定位放射線治療、強度変調放射線治療、画像誘導放射線治療)の演習を行う。	4 (2·2)	<u>次</u> 2~3	選択	実習
	評価方法	レポート提出	l			
	がん性疼痛治療学実習/ 教授・北川裕利 講師・福井聖	代表的ながん性疼痛の病態と診断について理解し、集学的治療の適応や基本 的手技を修得する。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
		がん性疼痛の診断および集学的治療 (薬物・神経ブロック療法を含む)の 臨床実習を行う				
	評価方法	出席、レポート提出による総合評価		.		
	歯科口腔外科学実習 / 教授・山本学	口腔内悪性腫瘍の診断、病態、治療法 について理解する。	$4 \\ (2 \cdot 2)$	2~3	選択	実習
	講師・家森正志	口腔内悪性腫瘍の集学的治療の臨床実 習を行なう。				
	評価方法	出席				

取得が見込まれる各学会認定資格等の概要

学会等名日本臨床腫瘍学会

連携等の 概要

学会との|米国臨床腫瘍学会(ASCO)および欧州臨床腫瘍学会(ESMO)が推奨するグローバル・コ アカリキュラムに基づき作成し、承認された日本臨床腫瘍学会による「がん薬物療法専 門医のための研修カリキュラム」」の則った研修を行う。滋賀医科大学医学部附属病院は 研修認定施設でもある。

> 併せて日本臨床腫瘍学会主催教育セミナー・ASCO・ESMOなどの教育的プログラムも積極 的に活用する。

資格名

日本臨床腫瘍学会・がん薬物療法専門医

資格要件 ◯申請時において(医師国家試験合格後2年の初期研修を終了した後)5年以上がん治療 の臨床研修を行っていること、および、がん治療に関する十分な業績があること(国家 試験合格:2010 (H22) 年以前の場合)

> (文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プランのもとで大学院医学博士課 程を卒業したものは学会所定の規定に従い申請可能)

- ②学会認定研修施設において学会所定の研修カリキュラムに従い、がん薬物療法を主と した臨床腫瘍学の臨床研修を行い、これを修了していること
- ③各科の基本となる学会の認定医あるいは専門医の資格を有していること
- ④申請時において臨床腫瘍学に関連した論文1編(共著可)および学会での発表1編以上 (共著可) を行っていること
- ⑤申請時から遡って過去3年間に、当学会の主催する教育セミナーAセッション・Bセッ ションをそれぞれ1回以上出席していること
- ⑥申請時から遡って過去3年間に、学会の主催する教育セミナー(Aセッション、Bセッ ション双方を含む)に2回以上出席していること

最新の資格要件は学会ホームページ等を参照すること。

上記資格取得のためのプロセスのモデル

学前に行

大学院入 ①2年間の初期研修

うこと

大学院在 ①学会の定める診療実績

学中に行 ②学会認定の学会・セミナーの参加

うこと

- ③各科の基本となる学会 の認定医あるいは専門医取得(入学前、卒業後でも可)
- ④臨床腫瘍学に関連した論文1編および日本臨床腫瘍学会での発表1編(共著可)

大学院修

了後に行 ①日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医取得

うこと

取得が見る	
学会等名	日本がん治療認定医機構
学会との 連携等の 概要	滋賀医科大学附属病院は日本がん治療認定医機構の認める認定研修施設の1つである。
資格名	日本がん治療認定医機構・がん治療認定医
資格要件	①日本国の医師免許証を有すること
	②所属する基本領域の学会の認定医又は専門医、あるいは日本口腔外科学会の専門医の 資格を有すること
	③「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針(厚生労働省健康局長通知)」に準拠した緩和ケア研修会を修了していること。
	④機構の定める認定研修施設において、機構の定める『研修カリキュラム』に基づくが ん治療研修(通算2年以上のフルタイム研修、ただし医師国家試験合格後2年間の初期基 盤診療科研修期間を除く)を修了し、指導責任者による証明がなされていること。 担当 医としてがん治療を実施したがん患者(入院・外来は問わない)のうち20例(予備を含 め25例まで申請可)の症例一覧を提出できること 最新の資格要件は機構ホームページ等を参照すること。
上記資格」	取得のためのプロセスのモデル
大学院入 学前に行 うこと	①2年間の初期研修
大学院在	①機構の定める診療実績
学中に行	②機構認定の学会・セミナーの参加とがん治療認定医試験合格
うこと	③各科の基本となる学会 の認定医あるいは専門医取得(入学前、卒業後でも可) ④機構の認める学会、期間内におけるがん診療に関連した論文および学会発表
大学院修 了後に行 うこと	①日本がん治療認定医機構・がん治療認定医取得

ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を 担う薬剤師養成コース (コース必修科目・コース選択科目)

ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース

修了要件》履修方法	共通必修科目から6単位、共通選択科目から4単位以上、コース必修科目から 修了要件及び 履修方法 出6単位、コース選択科目から4単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ 必要な論文指導を受けた上で、本大学院が行う博士論文の審査および最終試験 に合格すること。					
評価基準 秀・優・良・可・不可の5段階評価。						
授業科目						
科目	授業科目の名称/	授業科目の目標	単 位	配当	必修 •	授業
分	担当教員職・氏名	授業科目の概要	数	年 次	選択	形 態
コース必修科目	臨床腫瘍薬剤学総論 / 教授・寺田智祐	ゲノム情報を用いたがん薬物療法の概 要を理解する。	4	1	必修	講義
	准教授・森田真也	ゲノムの体細胞変異と生殖細胞変異の 異同を概説し、それぞれのゲノム情報 に基づいた個別化がん薬物療法の具体 例について講義する。				
	評価方法	レポート提出		B		
	臨床腫瘍薬剤学特論 / 教授・寺田智祐 准教授・森田真也	ゲノム情報を用いたがん薬物療法を実 践するために必要な知識とスキルを習 得する。	4	1	必修	演習
		遺伝子多型解析を実施すると共に、ゲ ノム情報に基づいた個別化薬物療法に ついて演習する。				
	評価方法	レポート提出				
	臨床腫瘍薬剤学実習 / 教授・寺田智祐 准教授・森田真也	臨床薬理学的観点から、抗がん剤治療の個別化や適正使用を実践できる。また、基礎的・臨床的研究に主体的に参画することができる。	8 (4·4)	2~3	必修	実習
		抗がん剤の臨床薬理学的側面につい て、理論および実践について、実習を 行う。				
	評価方法	出席・レポート提出による総合評価				
	臨床腫瘍学実習/ 教授・醍醐弥太郎、 寺田智祐、中野恭幸 准教授・花岡淳	臨床腫瘍学に関わる先進的医療を含む 最新の臨床領域の医療・研究の意義を 理解する。 臨床腫瘍学に関わる先進的医療の事例 を説明できる。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
		臨床腫瘍学に関わる先進的医療を含めた最新の臨床領域の医療・研究現場を 経験し概要を報告する。				
	評価方法	出席、レポート提出による総合評価				

科 目 区 八	授業科目の名称/ 担当教員職・氏名	授業科目の目標 授業科目の概要	単位数	配当年	必修 • 選択	授業形能
<u>分</u> コース 選択科目	習/ 教授・醍醐弥太郎、	悪性腫瘍のゲノム医学の基礎を習得し、がんゲノム医療を理解する。また、がんゲノム医療に関わる基礎・臨床医学的研究に主体的に参画することができる。	4 (2·2)	<u>次</u> 2~3	選択	態 実習
		悪性腫瘍にかかわるがんゲノム医療および精密医療(Precision Medicine) の理論と実践について実習を行う。				
	評価方法	出席、レポート提出による総合評価			I	
	遺伝統計学実習/ 教授・醍醐弥太郎 准教授・川北素子	悪性腫瘍の遺伝学の基礎を習得し、遺伝統計学を理解する。また、遺伝統計学的手法を用いた基礎・臨床医学的研究に主体的に参画することができる。 悪性腫瘍にかかわる遺伝学、遺伝統計学ならびに生命倫理、遺伝カウンセリング(診断、治療含む)の理論と実践について実習を行う。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
	評価方法	出席、レポート提出による総合評価	k	4	A	
	バイオインファマ ティクス実習/ 教授・醍醐弥太郎 准教授・川北素子	悪性腫瘍のバイオインファマティクス解析の基礎を習得・理解する。また、バイオインファマティクスの手法を用いた基礎・臨床医学的研究に主体的に参画することができる。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
		悪性腫瘍にかかわるバイオインファマ ティクス解析の理論と実践について実 習を行う。				
	評価方法	出席、レポート提出による総合評価				

-	
取得が見	込まれる各学会認定資格等の概要
学会等名	医療薬学会
学会との 連携等の 概要	研究成果を学会の年会で発表したり、学会主催・共催のセミナーに参加し、資格認定のための単位を取得する。
資格名	がん専門薬剤師
資格要件	がん専門薬剤師の認定を申請する者は、以下の資格をすべて具備することを要する。(1)日本国の薬剤師免許を有し、薬剤師として優れた人格と見識を備えていること。(2)薬剤師としての実務経験を5年以上有すること。(3)本学会の会員であること。(4)本学会認定薬剤師、日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、薬剤師認定制度認証機構により認証された生涯研修認定制度による認定薬剤師あるいは日本臨床薬理学会認定薬剤師であること。(5)本学会が認定するがん専門薬剤師研修施設において、本学会の定めた研修カリキュラムに従って、がん薬物療法に関する5年以上の研修歴を有すること。(6)本学会が認定するがん領域の講習会を50単位以上履修したこと。(7)がん患者への薬剤管理指導の実績50症例(3臓器・領域以上の癌種)を提出すること。(8)本学会が実施するがん専門薬剤師認定試験に合格すること。
資格取得	I のためのプロセスのモデル
大学院入 学前に行 うこと	・医療薬学会に入会する。
大学院在学中に行うこと	・がん薬物療法に関連した研究を行う。・がん薬物療法の実務に携わる。
大学院修 了後に行 うこと	・がん専門薬剤師の資格認定のために不足している要件をみたす。在学中に、がん専門 薬剤師の資格を取得した場合には、更新に必要な要件をみたす。

小児血液がんの診断法・治療法開発を担う 医療従事者養成コース (コース必修科目・コース選択科目)

小児血液がんの診断法・治療法開発を担う医療従事者養成コース

修了要件》履修方法	及び	科目から6単位、共通選択科目から4単位、コース選択科目から4単位以上、台 な論文指導を受けた上で、本大学院が行 合格すること。	計30	単位以	上を修	得し、
評価基準	秀・優・	良・可・不可の5段階評価。				
授業科目					T	
科 目	授業科目の名称/	授業科目の目標	単 位	配当	必修	授業
区 分	担当教員職・氏名	授業科目の概要	数	年 次	選択	形 態
必修科目	小児科学総論/ 教授・丸尾良浩 准教授・多賀崇	小児科の基礎知識を確認しつつ、小児 血液がんの基礎知識を身につける	4	1	必修	講義
		小児科入退院カンファレンス、医局会 症例検討会への参加、外来見学				
	評価方法	出席、レポート等による総合評価			h	
	小児科学特論/ 教授・丸尾良浩 准教授・多賀崇	小児血液がんの特異性を理解した上で、的確な診断ならびに治療計画が立てることができることを目標とする。 ミニレクチャー、症例検討会、血液腫	4	1	必修	演習
		瘍カンファレンス、多職種カンファレンス、国内外の学会やセミナーなどへの参加、専門外来見学				
	評価方法	出席、レポート等による総合評価				
	小児科学実習/ 教授・丸尾良浩 准教授・多賀崇	小児には成人とは異なる薬理動態および特有の腫瘍発生がみられる。これらについての診断(含遺伝子診断)、集学的治療(含造血幹細胞移植)および長期予後等の問題点について実習を行う。 小児悪性腫瘍について、その集学的治療(遺伝子治療、造血細胞移植療法)の実習を行う。	8 (4·4)	2~3	必修	実習
	評価方法	出席、レポート提出による総合評価				
	がん薬物療法学実習/ 教授・醍醐弥太郎、西英一郎、目 片英治、寺田智 祐、伊藤靖 講師・村田聡	がん薬物療法の実際を、その問題点も含めて理解する。 ケーススタディーを通して、薬物療法のがんへの効果と全身への副作用を具体的に理解できるよう、実習を行う。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
	評価方法	出席、レポート提出による総合評価	**************************************	F	R	

科			単	西己	必修	授
	┃ ┃授業科目の名称/	授業科目の目標	位	当	业 修	業
区	担当教員職・氏名		数数	年	選択	形
分	15日秋貝帆 八石	授業科目の概要	奴	次	送扒	態
コース	臨床腫瘍学実習/ 教授・醍醐弥太 郎、寺田智祐、中 野恭幸	臨床腫瘍学に関わる先進的医療を含む 最新の臨床領域の医療・研究の意義を 理解する。 臨床腫瘍学に関わる先進的医療の事例	4 (2·2)	2~3	選択	実習
	准教授・花岡淳	を説明できる。 臨床腫瘍学に関わる先進的医療を含めた最新の臨床領域の医療・研究現場を 経験し概要を報告する。				
	評価方法	出席、レポート提出による総合評価	•			
	がんゲノム医療学 実習/ 教授・醍醐弥太 郎、谷眞至、寺田 智祐 准教授・木藤克之	悪性腫瘍のゲノム医学の基礎を習得し、がんゲノム医療を理解する。また、がんゲノム医療に関わる基礎・臨床医学的研究に主体的に参画することができる。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
		悪性腫瘍にかかわるがんゲノム医療および精密医療(Precision Medicine) の理論と実践について実習を行う。				
	評価方法	出席、レポート提出による総合評価				
	遺伝統計学実習/ 教授・醍醐弥太郎 准教授・川北素子	悪性腫瘍の遺伝学の基礎を習得し、遺 伝統計学を理解する。また、遺伝統計 学的手法を用いた基礎・臨床医学的研 究に主体的に参画することができる。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
		悪性腫瘍にかかわる遺伝学、遺伝統計学ならびに生命倫理、遺伝カウンセリング(診断、治療含む)の理論と実践について実習を行う。				
	評価方法	出席、レポート提出による総合評価				
	血液内科学実習/ 教授・安藤朗、醍 醐弥太郎、寺田智 祐 准教授・木藤克之 講師・南口仁志、 河原真大	造血期悪性疾患の薬物療法(放射線治療・造血幹細胞移植療法を含む)を最新のEBMに基づいて実践することができる。また、基礎的・臨床的研究に主体的に参画することができる。 造血器悪性腫瘍に関する基礎的・臨床	4 (2·2)	2~3	選択	実習
	₹ 7 / T → > L	的研究、さらには分子標的治療・造血細胞移植(支持療法を含む)に関する研究について実習を行う。	よ \ ケケ) ~	- レッ か ハ	小	
	評価方法	出席、レポート提出(症例報告書を含む	り)等に	-よる総	台評価	

取得が見え	
学会等名	日本小児血液・がん学会
	本学は小児血液・がん専門医研修施設である。本学は定期学術集会や学会雑誌などにおいて研究成果を発表し、臨床教育セミナーや教育セミナーに参加することにより資格試験に必要な知識を深める。
資格名	小児血液・がん専門医
資格要件	・申請時において継続して3年間以上日本小児血液がん学会会員であり、会費を完納していること。 ・卒後初期研修修了後5年以上小児血液および小児がんを含む小児科臨床に携わっていること。 ・24か月以上日本小児血液がん学会の専門医研修施設に所属し、定められた研修カリキュラムを修了していること。 ・研修カリキュラムに定める疾患群と症例数の臨床経験を有すること。 ・既定の教育セミナーに出席し、既定の研修単位数を満たすこと。 ・専門領域の学会発表、および論文があること。 ・既定の申請料を期日までに納めること。 小児血液・がん専門医試験(筆記ならびに口頭試問)に合格すること。
上記資格[
	日本小児科学会専門医取得。
学前に行	日本がん治療認定医機構がん治療認定医、または日本血液学会血液専門医の取得。
うこと	日本小児血液・がん学会に入会する。
大学院在 学中に行 うこと	「日本小児血液・がん学会専門医カリキュラム」に規定されている詳細事項についての 知識・態度・技能を習得する。
大学院修 了後に行 うこと	資格認定に必要な要件をみたすべく経験を重ねる。在学中に資格を取得した場合は更新に必要な要件をみたすように経験と業績を重ねる。

ライフステージに応じたがん集学的治療と 全人的診療を担う医療従事者養成コース (コース必修科目・コース選択科目)

ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース

	生 必 に	要な論文 合格する	•	3 0 単位	立以上を	修得し	、かつ
評価基準	秀	・優・良	・可・不可の5段階評価。				
授業科目						S. 11.	1
	授業科目の 担当教員職		授業科目の目標	単位数	配当年	必修 • 選択	授 業 形
分分		, , , , , ,	授業科目の概要	200	次	21/	態
必修科目 / 教: 准	入病態制徒 授・谷眞 教授・清ヶ 藤弘之	至	固形癌の発生や進展・増殖、ならびに、担癌状態が生体に及ぼす影響についてエビデンスに基づいた病態を理解するとともに知識を深める。 癌細胞と免疫担当細胞のかかわり。	4	1	必修	講義
	評価方	ī法	レポート提出による総合評価				
/ 教: 准	ん病態制征 授・谷眞記 教授・清7 E田朋子	至	癌周囲微小環境が癌細胞に与える影響について、知識を習得する。 線維芽細胞と癌細胞の相互作用。	4	1	必修	演習
	評価方	法	出席、レポート提出による総合評価				
/ 教:		至	固形癌の生物学的特性を理解し、治療の原則や適切な臨床研究の実施法と解析法について理解するとともに、各治療法の利点と限界について認識を深める。 固形癌について、腫瘍増殖に対する抑制実験に関する実習。	8 (4.4)	2~3	必修	実習
1111111111	評価方	i法	出席、レポート提出による総合評価				
選択科目 教 裕	体物理医学 授・谷眞皇 教授・成済	至、目良	臨床医学に必要とされる生物・物理の 基礎知識の理解と臨床医学への応用 臓器制御系専攻として臨床医学に直結 した基礎物理、医療、診断に必要な放 射線物理・生体情報解析、またX線C Tの原理と基礎について実習をする	4 (2·2)	2~3	選択	実習
	評価方	ī法	出席、レポート提出による総合評価				

投業科目の名称	科			単	一二	必修	授
□ 2 対		 授業科目の名称/	授業科目の目標	'		***	
選択科目 教長・伊藤靖、平田 多佳子、縣保年、後 階級 2 公 3 免疫を理解し、解析法を 習得する。 実験動物、割検検体等を用いて、腫瘍組織に浸潤する細胞の回定、肿瘍細胞の発現する抗原の検出に関する実習を行う。 出席、レポート提出等による総合評価 選伝子工学実習/教授・後藤敏、平田 多佳子、縣保年、小島秀人、准教授・寺島智也、 I:遺伝子工学の基礎技術を概説する II:遺伝子工学に関する実習を行う II:遺伝子工学に関する実習を行う II:遺伝子工学に関する実習を行う II:遺伝子工学に関する実習を行う II:遺伝子工学に関する実習を行う II:遺伝子工学に関する実習を行う II:遺伝子工学に関する実習を行う II:遺伝子工学の表に表に表に表に表に表に表します。 II:遺伝子工学の表に表に表に表に表に表に表に表に表に表に表に表に表に表に表に表に表に表に表に	区		授業科目の概要		年	選択	形
組織に浸潤する細胞の同定、サイトカイン産生等の免疫反応の測定、腫瘍細胞の発現する抗原の検出に関する実習を行う。 評価方法 出席、レポート提出等による総合評価 遺伝子工学実習 核酸取扱いの基本を身につける。		教授・伊藤靖、平田 多佳子、縣保年、後	の基礎となる免疫を理解し、解析法を		2~3	選択	実習
遺伝子工学実習/ 教授・後藤敏、平田 多佳子、縣保年、小 島秀人、 推教授・寺島智也、 I:遺伝子工学の基礎技術を概説する II:遺伝子工学に関する実習を行う 神子 一			組織に浸潤する細胞の同定、サイトカイン産生等の免疫反応の測定、腫瘍細胞の発現する抗原の検出に関する実習				
教授・後藤敏、平田 多佳子、縣保年、小島秀人、推教授・寺島智也、 「は一世を下で関する実習を行う		評価方法	出席、レポート提出等による総合評価				
推教授・寺島智也、		教授・後藤敏、平田 多佳子、縣保年、小	核酸取扱いの基本を身につける。		2~3	選択	実習
組織工学実習/ 教授・今井晋二 推教授・川崎拓、森 幹士 情・軟骨・軟部組織の組織工学のため に必要な基礎知識と技術を習得させる 人工骨、人工軟骨、靱帯、血管、神経 などの組織の再生を行うために必要な 細胞培養方法(細胞腫類:骨髄間葉系 細胞、軟骨細胞、組織芽細胞など、培養条件、力学的負荷、添加する成長因 子の種類)、適切なscaffoldの選択、 作成に関する基礎的知識を供与し実習 を行う。 世席、レポート等による総合評価 「呼吸器内科学実習」 教授・中野恭幸 講師・長尾大志、小川惠美子 「呼吸器系の腫瘍に関して最新の診断 法・治療法を論ずることができ、実践」することができる。 「肺腫瘍について、その診断ならびに集学的治療(化学療法・放射線治療)について実習を行う。		准教授・寺島智也、					
教授・今井晋二 作 軟骨・軟部組織の組織上字のために必要な基礎知識と技術を習得させる (2・2)		評価方法	出席、レポート等による総合評価				
人工骨、人工軟骨、靱帯、血管、神経などの組織の再生を行うために必要な細胞培養方法(細胞腫類:骨髄間葉系細胞、軟骨細胞、組織芽細胞など、培養条件、力学的負荷、添加する成長因子の種類)、適切なscaffoldの選択、作成に関する基礎的知識を供与し実習を行う。 世席、レポート等による総合評価 「呼吸器内科学実習」を行う。 世席、レポート等による総合評価 「呼吸器内科学実習」を行う。 世際、おかり、治療法を論ずることができ、実践することができる。 「は、シャー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		教授・今井晋二 准教授・川崎拓、森		_	2~3	選択	実習
呼吸器内科学実習/ 教授・中野恭幸 講師・長尾大志、小 川惠美子		幹工	などの組織の再生を行うために必要な細胞培養方法(細胞腫類:骨髄間葉系細胞、軟骨細胞、組織芽細胞など、培養条件、力学的負荷、添加する成長因子の種類)、適切なscaffoldの選択、作成に関する基礎的知識を供与し実習				
教授・中野恭幸 講師・長尾大志、小川惠美子		評価方法	出席、レポート等による総合評価				
学的治療(化学療法・放射線治療)について実習を行う。		教授・中野恭幸 講師・長尾大志、小	法・治療法を論ずることができ、実践	_	2~3	選択	実習
評価方法 出席、レポート提出等による総合評価			学的治療(化学療法・放射線治療)に				
		評価方法	出席、レポート提出等による総合評価				

4 3			114	#7	以依	1 502
科 目	授業科目の名称/	授業科目の目標	単 位	配当	必修	授 業
区分	担当教員職・氏名	授業科目の概要	数	年次	選択	形 態
選択科目	弥太郎、寺田智祐 准教授・木藤克之	造血期悪性疾患の薬物療法(放射線治療・造血幹細胞移植療法を含む)を最新のEBMに基づいて実践することができる。また、基礎的・臨床的研究に主体的に参画することができる。 造血器悪性腫瘍に関する基礎的・臨床的研究、さらには分子標的治療・造血細胞移植(支持療法を含む)に関する研究について実習を行う。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
	評価方法	出席、レポート提出(症例報告書を含む	め)等に	こよる総	合評価	
	消化器内科学実習/ 教授・安藤朗、醍醐 弥太郎、寺田智祐 准教授・伊藤明彦	消化器癌・悪性腫瘍の薬物療法(放射線治療・インターベンションを含む)を最新のEBMに基づいて実践することができる。また、基礎的・臨床的研究に主体的に参画することができる。 消化器癌についての内視鏡的治療ならびに放射線・化学療法、肝癌・膵臓でにないである。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
		癌・胆管癌についての集学的治療について実習を行う。				
	評価方法	出席、レポート提出(症例報告書を含む	ひ) によ	くる総合	評価	
	小児科学実習/ 教授・丸尾良浩 准教授・多賀崇	小児には成人とは異なる薬理動態および特有の腫瘍発生がみられる。これらについての診断(含遺伝子診断)、集学的治療(含造血幹細胞移植)および長期予後等の問題点について実習を行う。 小児悪性腫瘍について、その集学的治療(遺伝子治療、造血細胞移植療法)	4 (2·2)	2~3	選択	実習
		の実習を行う。				
	評価方法	出席、レポート提出による総合評価	1	1	>== 1 tm	
	皮膚科学実習/ 准教授・藤本徳毅 講師・加藤威、中西 健史 客員教授・立花隆夫	皮膚原発悪性腫瘍(皮膚悪性リンパ腫、軟部腫瘍を含む)について、診断(免疫科学的手法ならびに分子生物学的手法をを含む)およびその集学的治療を論ずることができ、かつ実践することができる。がん治療認定医または皮膚悪性腫瘍指導専門医取得が目標。 皮膚原発悪性腫瘍について、診断およびその集学的治療の実習を行う。	$\begin{pmatrix} 4 \\ (2 \cdot 2) \end{pmatrix}$	2~3	選択	実習
	 評価方法	 出席、レポート提出による総合評価	I	I		
	** ** **					

± 31			単	#7	必修	授
科 目	 授業科目の名称/	授業科目の目標	位	配当	业 修	業
区	担当教員職・氏名		数数	年	選択	形
分	12 2 2 2 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2	授業科目の概要		次	<i>~</i>	態
コース	消化器外科学実習/ 教授·谷眞至 准教授·内藤弘之 講師·村田聡、飯田 洋也、三宅亨	消化器癌の生物学的特性を理解し、治療の原則や適切な臨床研究の実施法と解析法について理解するとともに、各治療法の利点と限界について認識を深める。 消化器癌について、その集学的治療ならびに抗腫瘍剤の感受性の研究を含め	4 (2·2)	2~3	選択	実習
		た実習を行う。 				
	評価方法	出席と実習のレベル評価				
	乳腺・一般外科学実習/ 准教授・梅田朋子 教授・谷眞至 准教授・清水智治	乳腺の生物学的特性を理解し、治療の原則や適切な臨床研究の実施法と解析 法について理解するとともに、各治療 法の利点と限界について認識を深め る。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
		乳腺腫瘍について、その集学的治療 (癌ワクチン療法を含む)の実習を行う。				
	評価方法	出席、実習の習得レベル評価				
	呼吸器外科学実習/ 准教授・花岡淳	肺癌の腫瘍特性を理解した上で診断・ 治療について学習し、治療計画を立案 出来るようになることを目指す。 肺癌について、その集学的治療(免疫 治療を含む)の臨床実習を行う。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
	評価方法	出席・レポート提出による総合評価	I	I		
	整形外科学実習/教授・今井晋二	原発性および転移性骨・軟部腫瘍の画像診断、病理診断と治療(外科的治療、化学療法)について学習し、治療計画の作成と実施が遂行できることを目指す。 骨・軟部腫瘍について、その集学的治療の臨床実習を行う。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
	評価方法	 診療への参加とレポート提出により総合	L 合的に割	L F価する	.	l
	所画の伝 脳神経外科学実習/ 教授・野﨑和彦 講師・深見忠輝	中枢神経系原発腫瘍の分類を習得し、 その診断方法、分子生物学的背景について理解する。また転移性脳腫瘍を含めた中枢神経系腫瘍の手術治療、がん化学療法、放射線治療の役割を学習する。 脳腫瘍について、その集学的治療の臨床実習を行う。	4 (2.2)	2~3	選択	実習
	評価方法	出席、レポート作成などによる総合評化	I 西	I	l	
L	l.	l .				

投業科目の名称	1 1			774	327	N 16	142V
分 日本の 2~3 選択 2~3 2~3 2~3 2~4 2~3 2~3 2~4 2~3 2~4 2~3 2~4 2~3 2~4 2~3 2~4 2~3 2~4 2~3 2~4 2~3 2~4 2~3 2~4 2~3 2~4 2~3 2~4 2~3 2~4 2~3 2~4 2~3 2~4	目		授業科目の目標	位	当	•	業
選択科目 教授・清永住史 作教授・大脇成広 神 前英明 神 神 前英明 神 神 前英明 神 神 前英明 神 神 前 英明 神 神 前 英明 神 神 前 英明 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神	· ·	担当教員職・氏名	授業科目の概要	数	· '	選択	
治療の臨床実習を行う。		教授・清水猛史 准教授・大脇成広 講師・戸嶋一郎、神	た適切な検査・診断と治療を行うことができる。		2~3	選択	実習
産科学・婦人科学実 がん妊孕について、正しい知識と最新 4 (2・2) 2~3 選択 実習 数長・村上節 准教授・木村文則 2~3 選択 実習 2~3 2~3 2~3 2~3 2~5 3 3 3 3 4 4 (2・2) 3 3 3 4 4 (2・2) 3 3 4 4 (2・2) 3 3 4 4 4 4 (2・2) 3 3 4 4 4 4 4 4 4 4							
習/ 教授・村上節 准教授・木村文則 ** ** ** ** ** ** ** ** **		評価方法	出席、レポート提出による総合評価				
宇宮・卵果の悪性腫瘍で中心に、その 集学的治療の臨床実習を行う。さらに 妊孕性の維持についての基礎 的研究を 行う。		習/ 教授・村上節	の技術を修得する。 		2~3	選択	実習
※原案科学実習/教授・河内明宏 推教授・成田充弘 知識を身につけ、各種癌の特異性を理解した上で、的確な治療計画が立てることができることを目標とする。さらに骨盤内臓器癌に対する拡大手術に伴う尿路再建について、その集学的治療の臨床実習を行う。さらに男性不妊に対する精子保存など化学療法別の各種の有害事象に対する対処法についての実習を行う。			集学的治療の臨床実習を行う。さらに 妊孕性の維持についての基礎的研究を				
教授・河内明宏 本教授・成田充弘 お職を身につけ、各種癌の特異性を理 知識を身につけ、各種癌の特異性を理 解した上で、的確な治療計画が立てることができることを目標とする。さらに では では では では では では では で		評価方法	出席、レポート提出による総合評価		•		
的治療の臨床実習を行う。さらに男性 不妊に対する精子保存など化学療法剤 の各種の有害事象に対する対処法についての実習を行う。 正本の大路正人 を持ている。 正本の大路に大きな、大路に大きな、大路に大きな、大路に大きな、大路に大きな、大路に大きないである網膜芽細胞腫、悪性、大路に大きな、大路に大きないでは、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな		教授・河内明宏	知識を身につけ、各種癌の特異性を理解した上で、的確な治療計画が立てることができることを目標とする。さらに骨盤内臓器癌に対する拡大手術に伴	_	2~3	選択	実習
眼科学実習/ 教授・大路正人 准教授・西信良嗣 講師・澤田修、柿木 雅志			的治療の臨床実習を行う。さらに男性 不妊に対する精子保存など化学療法剤 の各種の有害事象に対する対処法につ いての実習を行う。				
教授・大路正人 准教授・西信良嗣 講師・澤田修、柿木 雅志 取信			出席、レポート提出による総合評価				
治療の臨床実習を行う。 IT		教授・大路正人 准教授・西信良嗣 講師・澤田修、柿木	悪性黒色腫,悪性リンパ腫,基底細胞癌,扁平上皮癌などの診断法とその治療法(手術療法,薬物療法,放射線療		2~3	選択	実習
放射線科学実習/ 教授・渡邉嘉之 講師・大田信一、井 藤隆太、園田明永							
教授・渡邉嘉之 講師・大田信一、井藤隆太、園田明永 お手技についても修得する。 各種悪性腫瘍の画像診断・放射線治療 法の臨床実習を行う。 (2・2)		評価方法	出席レポート提出による総合評価	•••••	•••••	•••••••••••••••••••••••••••••••••••••••	
法の臨床実習を行う。		教授・渡邉嘉之 講師・大田信一、井	と代表的癌腫の画像所見の特徴を理解 する。また、放射線治療の適応や基本	_	2~3	選択	実習
評価方法・レポート提出							
		評価方法	レポート提出				

科目	授業科目の名称/	授業科目の目標	単 位	配当	必修	授 業
区分	担当教員職・氏名	授業科目の概要	数	年次	選択	形 態
	放射線治療学実習/ 教授·渡邉嘉之	基本的な手技から高精度放射線治療までの放射線治療全体の方法論や適応等の考え方を理解する。 近年急速に発展し、臨床に導入され治療成績、有害事象の軽減に寄与する高精度放射線治療(定位放射線治療、強度変調放射線治療、画像誘導放射線治療)の演習を行う。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
	評価方法	レポート提出				
	麻酔科学実習/ 教授・北川裕利 講師・福井聖、瀬戸 倫義	がん治療に用いられる種々の外科的治療手技と、その治療を遂行するために 必要な麻酔科学について理解し、実践 することができる。	4 (2·2)	2~3	選択	実習
		がん治療時に必要な麻酔管理(周術期 管理)について臨床実習を行う。				
	評価方法	出席、レポート提出による総合評価				
	歯科口腔外科学実習 / 教授・山本学	口腔内悪性腫瘍の診断、病態、治療法 について理解する。	$4 \\ (2 \cdot 2)$	2~3	選択	実習
	講師・家森正志	口腔内悪性腫瘍の集学的治療の臨床実 習を行う。				
	評価方法	出席				

取得が見込まれる各学会認定資格等の概要

日本外科学会 日本乳癌学会 日本消化器外科学会 学会等名

本学は外科専門医制度修練施設であり乳癌学会認定施設である。本学は定期学術集会や 学会との 連携等の 学会雑誌などにおいて研究成果を発表し、臨床教育セミナーや教育セミナーに参加する 概要 ことにより資格試験に必要な知識を深める。

外科専門医 乳腺専門医 · 認定医 資格名

資格要件 ②外科専門医

修練開始登録後満4年以上経た段階で予備試験(筆記試験)が受験できる。予備試験に 合格後、修練開始後満5年以上経て、規定の修練をすべて経験した段階で認定試験(面接 試験)を受験できる。認定試験合格後、外科専門医として認定される(有効期間:5

診療経験(外科学会指定施設または関連施設において350例の手術経験(うち術者120 例))、業績(外科学会の指定した学術集会または学術刊行物に研究発表または論文発 表を行い業績単位一覧より20単位以上取得)が必要。

◎消化器外科専門医

既に外科専門医を習得済の場合は、次のステップとして日本消化器外科学会専門医を 目指す。消化器外科専門医は消化器分野における広範な知識と経験が必要とされるが、 消化器外科の領域における癌のウエイトは重く、専門医としてふさわしい外科医を育成 する。

◎乳腺認定医

- ・日本国の医師免許証を有すること。
- ・学会認定医制度の定める基本的領域診療科の認定医または専門医であること。
- ・継続4年以上乳癌学会の会員であること。
- ・臨床研修医終了後乳癌学会が認定した認定施設(関連施設を含む)において所定の 修練カリキュラムに従い修練を行っていること。
 - ・乳腺疾患に関する業績を有すること。

◎乳腺専門医

- 専門医の専門分野は、外科、産婦人科、内科、放射線診断、放射線治療とする。
- 専門医申請資格は、乳腺認定医であることを必須とする。
- 呼称は「乳腺専門医」とする。 3.
- 研修内容について
 - (1) 乳腺疾患の診療に携わる専門的な医師の養成を目的とする。
 - (2) 乳腺疾患に関する全般的、専門的な研修が求められる。
 - (3) 経験必須内容および診療経験等の到達目標数を明確にする。
- 5. 研修期間について

申請資格は、最低卒後7年(臨床研修終了後5年)以上が必要である。

6. 研修施設について

研修施設は、施設認定委員会が認定した施設でなければならない。

7. 研修の評価について

筆記試験と口頭試問にて受験を行う。

受検資格:受験申請時に本会会員であり、継続5年以上の会員歴を有すること。さら に臨床研修終了後、学会の認定する研修施設で通算5年以上の修練を終了したものとす る。受験申請には診療実績と業績が必要。

診療実績:専門分野別に定められた到達目標(乳癌100例およびその他の診療経験)に 規定する診療経験一覧表の確認審査を行う。

業績:資格認定委員会の定める学術集会における研究発表、学術雑誌への論文発表に よる乳腺疾患に関する業績(認定医・専門医精度規則による研究業績一覧表で30点以 上、ただし学会機関誌等に掲載された筆頭著者の学術論文1編以上を含む)の審査を行 う。

上記資格取得のためのプロセスのモデル				
大学院入 学前に行 うこと	各学会に入会する。			
	外科の臨床を行い術者を経験する。乳腺外科の臨床を経験する。それぞれに関連した研究を行う。			
	資格認定に必要な要件をみたすべく経験を重ねる。在学中に資格を取得した場合は更新に みたすように経験と業績を重ねる。			

2020 大学院医学系研究科博士課程 履修案内別冊 - がん専門医療人養成コース-

令和2年 4月 1日 発行 Published on April 1, 2020

編集·発行 国立大学法人滋賀医科大学学生課大学院教育支援係 Edited and Published by Graduate School Educational Affairs Unit, Student Division, Shiga University of Medical Science

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

Seta Tsukinowa-cho, Otsu, Shiga 520-2192 JAPAN TEL: 077-548-2095 • 2096 FAX: 077-548-2799

E-mail : hqgs@belle.shiga-med.ac.jp

© 2020 滋賀医科大学 Shiga University of Medical Science